

## 健康福祉常任委員会 2023年度視察 愛知県小牧市

2023.5.9 実施

町田市議会議員 健康福祉常任委員 吉田つとむ

<親の自己肯定感を高める取り組みについて（親子健康手帳、母子保健推進協議会等）>

（小牧市の概要）

小牧市は、名古屋市の北約 15km 濃尾平野のほぼ中央に位置しています。

（東名高速道路・名神高速道路・中央自動車道の三大ハイウェイの）ジャンクションとして、県営名古屋空港も近くにあり、物流面でも便利な街です。

人口：150,188 人（R5.4.1 現在）

高齢化率：25.3%

市のシンボルは、織田信長が築城した小牧山。

配布資料（令和 5 年 5 月 9 日）及び、一部追記

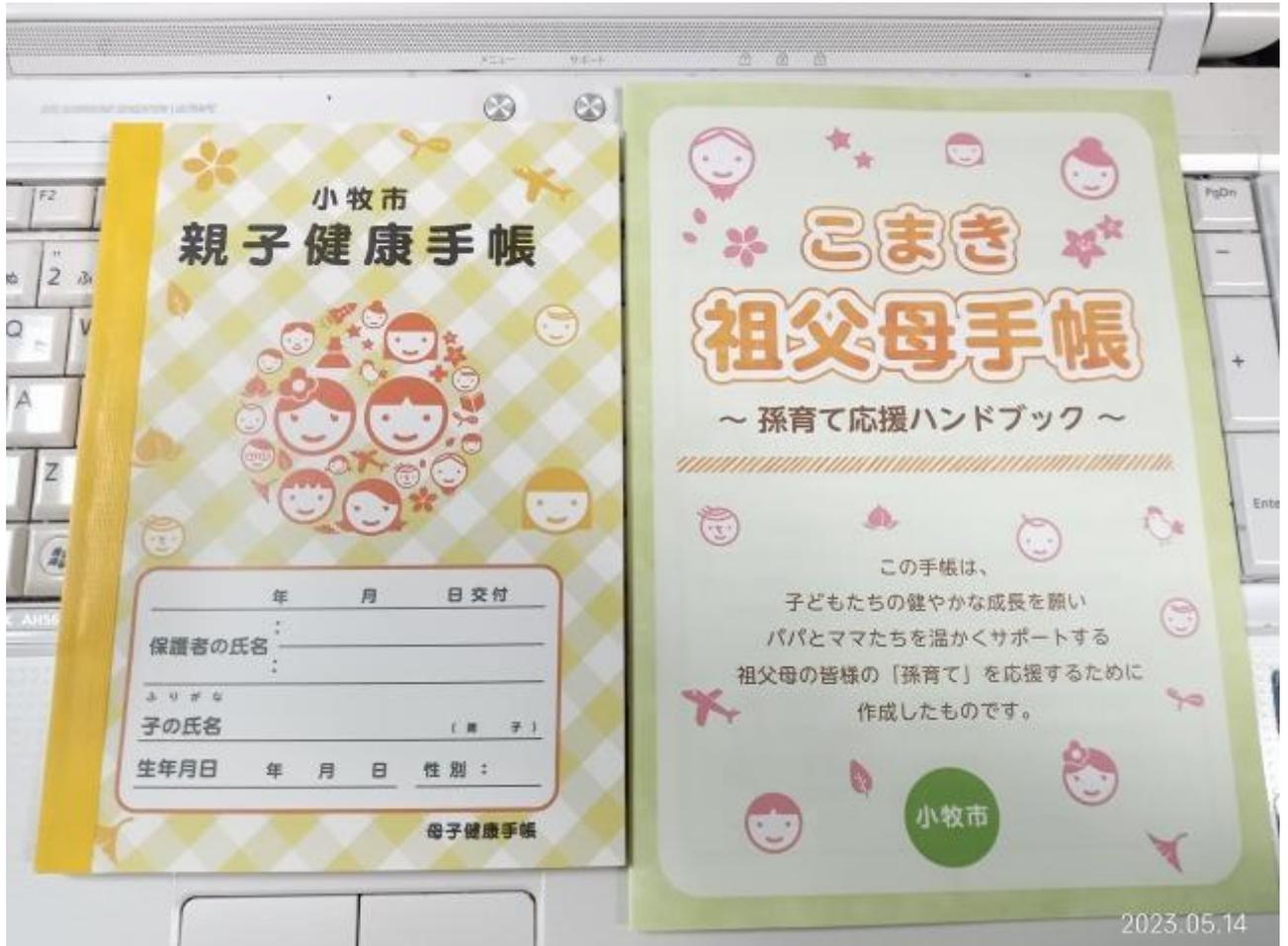


小牧市の案内人の方（駅前で撮影）

(施策の説明)

親の自己肯定感を高める取り組みが必要と言う考えで、母子健康手帳の小牧市による改善が進められた。

母子健康手帳は国が定めるものであるが、親の力になる立場から、保健師・助産婦・保育士・養護教諭による母子手帳作成部会が設置され、自前の改善を加えた母子健康手帳が作られる。



→母子保健推進協議会委員 (平成9年度当時)

|       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 医師会   | 小児科医                        |
| 歯科医師会 | 小児歯科医                       |
| 教育関係者 | 指導主事<br>養護教諭                |
| 保育関係者 | 指導保育士<br>児童センター長<br>家庭自動相談員 |
| 行政機関  | 保健所 地域保健課長補佐<br>生涯学習課長      |

その他

児童課長  
保健センター所長  
臨床心理士  
主任児童委員  
助産婦

## 自己肯定感獲得動画 「みんなちがってみんないい」

子どもを取り巻く周りの大人ができることのヒントを描いています。



- ①乳幼児期「お母さんのぬくもり、大好き！」
- ②1歳半～1歳頃「わたしの思いを認めてほしい！」
- ③3歳児から4歳「私のお話 聞いてほしいな！」
- ④3歳～5歳「私のそのままを受け止めて！」
- ⑤3歳～5歳「ケンカしちゃった！」
- ⑥幼児期「人の役に立ちたいな」
- ⑦小学校低学「学童期になっても」

こちらからも検索できます ↓ ↓ ↓  
「小牧 みんなちがってみんないい」  
「小牧 自己肯定感」



QRコード

小牧市  
小牧市母子保健推進協議会

2023.05.14

(参考：愛知県は父子手帳を発行するという)

母子健康手帳に国が求める必須事項に加え、小牧市独自で追記する。

目的は、子どもの自己肯定感、親の眼で見た肯定感を達成する。

国は6歳まで記入するようにしているが、小牧市は15年間(中学校を卒業する)使用する。内容は時代によって変えていく。

医療機関が内容を見てわかるように作成されている。

親子で理解できるように作成されている。

命のループ→親が子どもが20歳になった時、最高の宝物としてプレゼントする。

さらに、次のステージも考慮されている。

## これからの母子健康手帳に期待すること



### ★母子健康手帳本来の機能

- ①妊産婦及び乳幼児の健康を管理し、必要な保健医療や支援に結び付ける
- ②当事者の健康管理を促す手段としての機能

### ★プラスαの機能で母子健康手帳に付加価値を！

- ①親と子の自己肯定感を育む役割
- ②医療従事者や母子保健関係者だけが手に取るものでなく、子育て支援関係者、教育関係者等も手に取り多様な支援に結び付ける役割
- ③様々な生まれや育ちの子どもたち（低体重児、多胎児、障がい児など）にも対応できる役割も求められている（サブブックで対応するのもひとつ）。

(所感)



子育てが不安な世相の中で、まず、妊娠・出産から、子ども時代に留まらず、中学を卒業するまでの記録を成長過程に合わせて記録する作業をその時々積み重ねで行える点が評価されるべきものでしょう。

もちろん、国が決めたもの、役所が作るものですから、堅苦しい部分が随所

に見られますが、挿絵や構成の色使いに見やすさを心がけて作成されていますし、アドバイスの内容がページごとにあふれています。これを見本にすれば、もっと良いものが他で出来てくるのではないのでしょうか。

そうした意味では、この小牧市 親子健康手帳の全ページがページごとを一葉ごとに掲載してもらえば、他に転用したい自治体や関係者により普及するのでは無いかと考えた次第です。

そうした意味では、この小牧市の取り組みは、親子健康手帳の電子化にもっとも貢献できる内容ではないかと思いました。

果たして、国で進められる電子化はどのような視点が盛り込まれるのでしょうか。旧来のように、国が定める部分と自治体が定める部分の自由度を高める必要でしょう。



なお、「母子健康手帳」と称される名称について、現代の男女協働の時代にそぐわない、あるいは父親が子育てをしている場合に基本的に相応していないものですが、国では伝統が優先されています。副題をつける方法があるかも知れませんが、親子健康手帳の方がはるかに現状にあっているように思いますし、家庭環境がどのように変化しようが包摂内容ははるかに拡大すると思います。旧来の家庭観に拘束され過ぎると、片親で育てる内容にあっていない面がありますし、とりわけ父親が子どもを育てるケースは早々に整備されるべきものでしょう。あるいは、親でない人や機関が育てるものにも相応するべき方法が社会的に保障されるべきものと考えています。

これらの視点を考察するに際し、小牧市の独自取り組みが大変参考になる内容だと思いました。